



小樽協会病院

社会福祉法人 北海道社会事業協会小樽病院

〒047-8510 北海道小樽市住ノ江1丁目6番15号

TEL. 0134-23-6234 FAX. 0134-33-7752

Email. info@otarukyokai.or.jp

<http://www.otarukyokai.or.jp>



- JR南小樽駅下車 徒歩 5 分
- JRバス・中央バス 住吉神社前下車 徒歩 5 分
- 自家用車 小樽市内国道 5 号線
 - ・札幌方面より住吉歩道橋右折
 - ・余市方面より住吉歩道橋左折

病院概要

平成23年8月1日現在

名称 社会福祉法人 北海道社会事業協会 小樽病院（略称／小樽協会病院）
 開設日 大正14年（1925年）9月1日
 理事長 吉田 秀明
 病院長 柿木 滋夫
 許可病床 一般病床240床
 診療科目 消化器内科・循環器科・呼吸器科・外科・呼吸器外科・整形外科・形成外科・産婦人科・小児科・麻酔科・病理診断科・放射線科
 専門外来 糖尿病専門外来・健診専門外来・乳腺専門外来・循環器科ベースメーカー外来・小児科腎臓専門外来・小児科神経専門外来・小児科内分泌専門外来・小児科心臓専門外来・睡眠時無呼吸外来・禁煙専門外来・血液内科外来
 看護体制 三交代制（一部 二交代制）、入院基本料：7対1
 各病棟において、1日トータル（24時間）で入院患者7名に対して1名以上の看護師を配置
 職員数 400名（平成28年8月1日現在）
 分娩件数 330件（平成26年度）

認定施設

日本内科学会認定医制度教育関連病院
 日本循環器学会認定専門医研修施設
 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設
 日本高血圧学会専門医認定施設
 日本小児科学会認定専門医研修施設
 日本外科学会専門医制度修練施設
 呼吸器外科専門医合同委員会認定修練施設関連施設
 日本乳癌学会認定医・専門医制度研修施設
 日本大腸肛門病学会認定関連施設
 日本がん治療認定医機構認定研修施設
 日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
 日本周産期・新生児医学会周産期母体・胎児専門医暫定研修施設
 日本呼吸器学会関連施設

日本産婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
 日本呼吸器内視鏡学会専門医指導制度関連施設
 エキスパンダー実施施設
 日本麻酔科学会認定施設
 日本臨床細胞学会認定施設
 日本病理学会研修登録施設
 日本臨床細胞学会教育研修認定施設
 臨床修練病院等指定
 厚生労働省薬剤師実務研修事業研修受入施設
 薬学教育協議会薬学生実務実習受入施設
 マンモグラフィ検診施設画像認定施設
 日本静脈経腸栄養学会NST稼動認定施設



みて、触れて、ともに考える看護



小樽協会病院

社会福祉法人 北海道社会事業協会小樽病院



笑顔と信頼で癒される
優しい医療を。



ごあいさつ

社会福祉法人
北海道社会事業協会小樽病院

病院長 柿木 滋夫

当院は、1925年に社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院「略称：小樽協病院」として開設され、以来一貫して急性期医療を役割とし、小樽後志地域の住民に対して基幹病院となるべく質の高い医療を提供すべく努力してきました。現在は、消化器内科、呼吸器科、循環器科、産科、婦人科、小児科、外科、呼吸器外科、麻酔科、放射線科、病理診断部を有し、高い専門性を持ちながら病病、病診連携して地域完結型医療を目指しています。また、2013年4月からは、肛門外科、乳腺外科、形成外科を開設し地域のニーズに対応してきました。地域周産期センターとしても認定され、2003年より日本医療機能評価機構認定病院（2015年10月2日再認定）として地域に根ざした医療を行ってまいりました。また、2016年6月には地域包括ケア病棟を開設し患者様がリハビリを行いながら安心、納得して在宅へ復帰できるよう

にお手伝いをしたいと思っています。

2012年、当院の理念を「患者様に寄り添い、良質で心のかよった優しい医療をめざします」としました。患者さんと寄り添いながら一緒に医療を行っていくことをモットーに、また、地域住民の皆様にも小樽協病院を育てていただき、充実した医療を提供していきたいと思っています。

小樽市は少子高齢化、人口の減少がますます進み、必要とされる医療も時代とともに変化するものと思われますが、病診連携、病病連携などを通じて地域医療機関とも密に連携を取りながら地域で完結される医療を目指しその一翼を担ってまいります。

当院の理念をモットーに地域の皆様から信頼され、頼りにされる病院として認められることを願っています。

私たちの
理念

患者さまに寄り添い、
良質で心のかよった
優しい医療をめざします。

私たちの
基本方針

1. 患者さまの権利を尊重し信頼される医療を提供します。
2. 誠実さと思いやりの心を持って安心できる医療を目指します。
3. 医療知識・技術の向上に努め質の高い医療を目指します。
4. 地域医療機関との連携を図り急性期病院としての役割を果たします。

患者さまの
権利

小樽協病院ではすべての患者さまに次の権利があることを認め、これを尊重する医療に努めます。

1. 良質の医療を受ける権利…（医療の質の保証を受ける権利）
2. 情報を得る権利…（自分の医療について知る権利）
3. 自己決定の権利…（自分の医療について決定する権利）
4. 選択の自由の権利…（医療機関を自由に選択する権利）
5. 尊厳を得る権利…（尊厳とプライバシーを守る権利）

外来・設備
地域連携医療



臨床工学技士はCEと呼ばれ、高度に進化した医療機器の専門職として、医師の指示のもとに生命維持管理装置の操作を担います。当院では臨床工学技士が常勤し、心臓血管撮影室や手術室など、すべての診療科に携わるME機器を管理しています。

快適な空間と充実の設備で 心のふれあう医療を。

私たちは『病』だけを診るのではなく、『人』を診る医療、「心のふれあう」医療を目指し、患者さまと向き合いながら信頼関係を基盤とした医療を提供します。モットーは、医療・看護・介護が一体となった良質で心の通った医療の追求。患者さまが一日も早く退院でき、健やかな日常生活を送っていただくため、充実した医療環境のなかで、心の不安を取り除き、療養に専念していただけるよう、真心を込めて治療に努めます。

診療科目

消化器内科・循環器科・呼吸器科・小児科・外科・産婦人科・
呼吸器外科・整形外科・形成外科・麻酔科・放射線科・病理診断科

専門外来

通常の診療科目に加えて、各専門外来を設けています。数多くの症例を診察してきたベテランスタッフがわかりやすく説明し、患者さま一人ひとりの症例に合わせた最も望ましい医療を実践いたします。

- 健康診断専門外来(日帰り人間ドック)
- 乳腺専門外来(デジタルマンモグラフィ)
- ペースメーカー外来
- 神経専門外来(小児科)
- 心臓専門外来(小児科)
- 睡眠時無呼吸外来
- 睡眠時無呼吸外来
- 禁煙外来
- 腎臓専門外来(小児科)
- 内分泌専門外来(小児科)
- 睡眠時無呼吸外来
- 糖尿病外来
- 血液内科外来

設備

当院では無菌手術室を含め4つの手術室、ICU、CCU、新生児治療室、MRI、マルチスライスCT、血管造影室など充実した設備を完備。スタッフの確かな技術で信頼の医療を提供いたします。



地域連携医療で より効率的な医療を。

私たちは地域社会や医療圏のなかで診療内容の充実を図り、より良い医療を提供したいと考え、「地域医療福祉連携室」を設置いたしました。

地域の医療機関との連携を密にし、相互の治療や患者さまの紹介・逆紹介についてのお問い合わせや連絡調整を行っております。

地域医療福祉連携室 患者支援センター

- ・ご紹介患者さまの受診及び検査予約の受付
- ・ご紹介頂きました患者さまの来院日時をご連絡
- ・ご紹介頂きました患者さまの返書の管理
- ・当院外来診療担当医師一覧などを定期的に送付

医療相談室

病気になった時、経済的な問題や退院後のことなど、思いもかけない心配事が起こってきます。そんな時に安心して療養生活を送ることができるように、医療相談室の社会福祉士と一緒に考えながら解決に向けてお手伝いをしています。

看護部



当院で活躍している男性看護師の割合は比較的多く、職員全体の9%になります。男性看護師による看護は、患者様からのニーズも多く、男女の特性を活かした、多様な看護のアプローチで患者様を支えていきたいと思っています。当院では今後も積極的に男性看護師を採用していきたいと考えます。

信頼関係に基づいた地域に根ざした看護を。



みて、触れて、
ともに考える看護。

看護部長 川畑 いづみ 〈認定看護管理者〉

当院は、急性期医療を役割とし小樽後志地域の基幹病院として、地域の皆様に期待される質の高い医療・看護の提供に努めております。当院の理念である『患者様に寄り添い良質で心の通った優しい医療を目指します。』をモットーに、患者様を尊重し、さらなる確かな知識・技術・判断に裏付けられた看護を実践する力、チーム医療を推進できる力、患者様のために学び続ける力をもった看護職を育成し、専門性の高い看護を提供いたします。歴史ある小樽の街で、地域の皆様に愛される小樽協会病院であり続けるために、豊かに成長する看護職組織であるよう努力いたします。

看護部概要

- 外来看護体制／中央処理室・外来
※検査部チーム(内視鏡室・心カテ室)
※外来クリティカルバス(手術目的患者用)
- 病棟看護体制／一般病棟入院基本科【看護師7:1】、
固定チームナースing+受け持ち制
※クリティカルバス導入
- 看護業務／オーダーリングシステムによる指示の一元化と
ワークシートの活用、フォーカスチャートによる記録、
クリティカルバスによるチーム医療と情報の共有
- 地域医療体制／地域医療福祉連携室 患者支援センター
(地域連携担当者、MSW)、継続看護室(看護師による訪問看護)

看護部の 方針

1. 生命の尊厳と人権を尊重し、患者様に寄り添った看護を提供します。
2. チーム医療を推進し、患者様の最善を考えた看護を提供します。
3. 患者様の安全を守り、安心できる療養環境を提供します。
4. 生涯学び、倫理観と専門性を追求し、質の高い看護を提供します。
5. 急性期から回復期、在宅支援まで継続した看護を提供します。

看護クラーク・看護補助者

全病棟・外来に配置し、業務分担による看護サービスの向上を図ります。

看護クラークは、医療秘書的な役割を含めた看護師の事務作業に特化した業務内容になっています。師長や副師長、リーダーナースの日々の業務をカバーします。主な業務内容は勤務表作成後の入力作業、看護関係データのパソコン入力作業、書類作成などがあります。ほか、カウンターでの案内や取次ぎ、電話対応も行ないます。看護補助者は看護師の指示のもとに患者さまの療養上のお世話(清潔・患者移送・食事介助など)や物品管理などを行っています。



【看護クラーク】

事務作業が軽減され「看護師が病室に行く時間を長くとれる」「夜勤の超過勤務が減少した」など現場からの声が多くあがっています。



【看護補助者】

患者さまと直接ふれあう機会が多く、看護師への的確な情報提供や、細やかな気遣いがありたい頼れる仲間です。

看護部



キャリア開発プログラムに、実践的能力やマネジメント能力を磨き、リーダーシップ性を身につける『コンピテンシー研修』や、指導能力を養う『プリセプター研修』などを設け、入職年以降も段階的なキャリアアップを継続的に支援しています。

看護の心と技術を 長期プランでしっかりと育成。



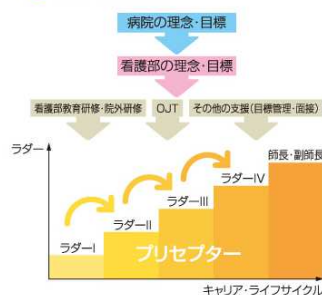
みて、触れて、
ともに考える看護。

看護副部長 松野 千代美〈認定看護管理者〉

当院では、急性期・回復期にある患者様お一人おひとりの意思を尊重し、看護職が専門性を発揮できるよう教育体制を整えています。新人看護職員教育においては、基礎教育課程における学びを活かして、研修ガイドラインにのっとり研修プログラムを整備し、看護実践の基盤作りと成長を支援しています。Off-JTである集合研修を年間を通して展開し、講義・演習に加えてグループワークにより、知識・技術の向上と新人看護職員間の交流を深めています。また、オンデマンドによるe-ラーニングを取り入れ、主体的に学ぶ環境を整えています。このように、地域でいきいき働く看護職を目指して、組織全体でサポートしています。

キャリア開発プログラム

■ キャリア開発概念図



総合的なスキルの向上を実践。

看護師のキャリアアップの支援を目的に、新人ナースからエキスパートナースまでを対象とした『キャリア開発プログラム』を導入しています。経験年数による教育支援に加え、専門知識や技術を段階的に習得していくクリニカルラダーを実施。個々人が組織の目標を踏まえ、自分の経験やライフサイクルに合わせ、キャリアプランを主体的に設定する目標管理を実践しています。

教育目標

1. 専門職業人として主体的に、意欲的に学習する。
2. 看護実践、マネジメント、人間関係、教育・研究の各能力が向上する。
3. 医療チームの一員としての役割と責務を自覚し根拠ある対応ができる。

新人看護職員研修

看護師としてスタートする大切な時期に、
看護実践の基礎をしっかりと身につけます。

当院では平成22年から、厚生労働省の新人看護職員ガイドラインに沿った『新人看護職員研修』に取り組んでいます。看護の質向上・医療安全確保・早期離職防止の3つの観点にもとづいたテーマ別の講義や演習を実施。同研修は、新人または当院以外のすべての看護職者が参加可能です。



プリセプターシップ

先輩と後輩が指導を通じて互いに成長する
プリセプターシップを実践しています。

『プリセプターシップ制』とは新人看護師(プリセプティ)が、職場に適応し、職業人として自立できるよう支援する人材育成制度のことです。当院では新人看護師一人に対して、先輩看護師(プリセプター)が一年間、マンツーマンで関与します。新人看護師は知識や技術に限らず、看護師としての姿勢や、態度を学びながら、実践力も磨きます。さらに、メンタルサポートを重視し、新人看護師の深刻なリアリティショックやカルチャーショックを防ぐことも目的としています。また、先輩看護師は

キャリア開発プログラムの一環であるプリセプター研修に参加し、新人看護師が入職する4月に備えて、プリセプターの役割に対する具体的な理解を深めます。プリセプターはプリセプティへの具体的な支援方法と関わり方を経験し、指導を通じた自己の成長を達成していきます。この教育制度を通じ、プリセプターとプリセプティが互いに成長することが、職場全体における看護力の向上につながります。





助産師



当院では、父母が赤ちゃんにする『インファントマッサージ』の教室を開催しています。国際インファントマッサージのインストラクター資格を持つ助産師による少人数制指導を実施しています。また、当院には整体師やアロマテラピストなどの資格を持った助産師が活躍の場を広げています。

自分らしく、安心・安全な
あたたかいお産を。

お産に関する疑問、不安などに一つひとつ丁寧に答えて、できる限りご希望に添った「自分らしいお産」の実現を、私たちがお手伝いしています。

当院では、外来における妊婦健診から分娩前後の入院中の周産期管理までを一貫して扱っています。安全と質の高い医療を提供するため、赤ちゃんは出生後、すべて小児科医の管理となります。また、当院は母乳育児を大切に考え、乳房ケアを推進しています。必要時には退院後も継続してケアを行っています。

自然なお産を大切にしています。

医療介入の少ない、産婦さんの希望に応える助産を目指しています。母親学級・外来の保健相談で、パースプランのお手伝いなど、助産師が主体となって妊娠から出産まで関わっています。

後志管内の周産期センターを担っています。

産婦人科医・小児科医の充実により、新生児科医と連携しながら地域のハイリスク妊婦・新生児のケアを積極的に行っています。



陣痛室

INTERVIEW

ナース・インタビュー
先輩に聞く
「私の仕事」

同じ目線で「一緒に考える」
これが私の大切なスタンスです。



乳がん看護認定看護師
佐藤 いづみ

Izumi Sato

Profile

小樽協成病院に勤めて13年。2006年、第一期となる「乳がん看護認定看護師」資格を取得し、常に向上心を持ち続けている。普段心がけているリラクゼーションは、プライベートでのドライブやショッピングを楽しむこと。「仕事のONとOFFをしっかりとわける。これがイチバンです」。

ヒントは患者様とのふれあいにある。

私のモットーは、患者様が安心して治療に集中できる環境をつくること。そして、そのために何ができるかを「一緒に考える」ことです。病気に対する不安や疑問、日常生活での障がいなど、どんな些細なことでもいいんです。目標を共有し、同じ目線に立つことが大切。患者様のことを深く理解したいなら、事務的に話を聞こうとするのではなく、1分でもできるだけ多く患者様と接すること。患者様とのふれあいのなかでこそ解決のヒントがあるのです。

乳がんの患者様に対する看護も、やはり心のサポートが重要です。化学療法などによる副作用のケアも大切ですが、不安をひとりで抱えないよう、患者様自身が予防や症状緩和に向けて取り組めるようお手伝いをします。

また、乳がんに対する理解度を深め、医師から提供された治療における選択肢について理解し、患者様とご家族が納得した選択ができるように支援するのも看護師の役目です。そういった日々の看護のなかで、少しでも多く患者様にできることを提案し、それが良い結果につながったときこそ、この仕事を選んで良かったと思う達成感があります。

やりがい深まる、伸ばしてくれる環境。

患者様との向き合い方と同様に、後輩スタッフの育成に関しても共通することがあります。後輩スタッフ自身がどうなりたいか、その意志をしっかりと共有すること。そして、互いの目標を一致させ、そこに達成するためのサポートをするのが私の役割だと思っています。



人材育成も私の考え方を押しつけるのではなく、「一緒に考える」というスタンスです。そして、実務や患者様との接し方は、自分が実践して示し、後輩スタッフの良いところを伸ばす。怒るだけでは何ひとつ良いことはありませんからね(笑)。

これは私流のやり方というわけではなく、この職場で上司たちが私にくれたこと。小樽協成病院の育成環境は、教育システムがしっかり整っていて、上司が一人ひとりの目標や意欲を伸ばしてくれます。できることが増えると自信につながりますよね。その自信を上司はしっかり見守り、任せてくれる。頑張るほど、やりがいが増えます。そして、看護師一人ひとりの成長は、より良い看護につながり、それは患者様のためになる。この職場の理想的な環境を誇りに思っています。私は2006年に乳がん看護認定看護師の資格を取得しました。それも職場の理解と協力があってのおかげです。まだまだこの先も挑戦したいことが尽きません。看護師としてのやりがいと一緒に深めていきましょう！

後輩へのメッセージ

「好き」という気持ちを
原動力に成長しましょう。

入職したばかりのころは思ったようにいかず、落ち込むこともあると思いますが、無理をしないこと。誰もがひとりではなく、人と接することで学び、時には助けられながら成長していけるのです。この仕事に「好き」という気持ちを原動力に頑張りたい。

INTERVIEW

先輩に聞く「私の仕事」

もっと患者様の役に立ちたい、
その思いが成長のチカラです。



皮膚・排泄ケア認定看護師
大崎 朱美

Akemi Ohsaki

Profile

病院勤務、特別養護老人ホームでの勤務を経て、2008年小樽協会病院に入職。2011年「皮膚・排泄ケア認定看護師」資格取得。この病院は柔軟な考えを持った看護師が多いのが特徴。常に新しいことを勉強していくという意欲と活気に満ちているので、とても刺激になります。」



経験に頼らず、新たに向上するやりがい。

私は2011年に「皮膚・排泄ケア認定看護師」の資格を取りました。皮膚・排泄ケア認定看護師の主な役割は、ストーマ（人工肛門・人工膀胱）や、褥瘡（じょくそう＝床ずれ）などに関わる適切な皮膚のケア・予防指導、排泄管理・指導も行います。

現在、通常の病棟業務をしながら、月・木の週2回で病棟・外来を含めて認定看護師の活動をしています。より求められるのは、医師に限らず、栄養士やケースワーカーといった多職種との連携力や、患者様とご家族への一歩踏み込んだ細やかな提案力。看護師として培った今までの経験は基盤としつつそこに頼らず、新たに必要知識や技術を採り入れる姿勢で日々向上していきたいと思っています。自分がスキルアップすることで、もっと患者様の役に立てる。この実感があるから頑張れるんですね。今もこうして現役で向上できるということにも喜びを感じます。

今は資格を取得して4年未満ですが、このように認定活動日を導入し、資格を活かす場があるのは、病院の理解と協力があってこそ。資格取得に向けた全面的な協力も含め、小樽協会病院の支援環境に感謝しています。

常に目指すことで、貢献できれば何より。

そもそも私が皮膚・排泄ケア認定看護師の資格に興味を持ったのは、前職の特別養護老人ホームでの経験がきっかけでした。医師が常駐しない施設では、利用者の方々にとって看護師の存在が何よりもの頼り。床ずれなどのケアを通じて、もっと根本的な原因

から予防を含めて携われないものかと感じるようになりました。例えば、せっかくストーマを採り入れても、セルフケアがままならず皮膚がいつも荒れているとしたら、日常生活は楽しいとは言えません。利用者の方々の自立した生活をお手伝いするうえで、看護師としてできることは、起きてしまったことに対処するだけではないはず。その現場でのジレンマから、専門性の高い皮膚・排泄ケア認定看護師資格の必要性を感じたんです。また、そこでの経験は、今までずっと病院勤務しか経験していなかった私にとって、病院という存在そのものを外から客観的に捉え、地域医療の在り方、看護師としての役割を再確認することができました。地域医療を支える小樽協会病院に入職し、認定看護師の資格取得は、40歳からのチャレンジでしたが、私が目指すことで、後輩看護師の今後のキャリアアップの参考になり、病院全体のレベルアップに貢献できれば何より。ここには、もっと看護師として自分を伸ばしたいという人を応援してくれる環境があります。一緒にやりがいを深めながら頑張りたいです。



後輩へのメッセージ

患者様がいてこそその
看護師だと思えます。

看護師歴20年になりますが、やはり思うのは「患者様がいてこそ私たち」だということ。医療現場の変化は患者様に役立つことを前提に改善されているもの。ならば経験に関わらず自分も変化していく。その積極的な姿勢が看護師を続けるうえで大切だと思います。

INTERVIEW

先輩に聞く「私の仕事」

看護師一人ひとりが
共に成長していくことが理想。



慢性疾患看護専門看護師
高井 奈津子

Natsuko Takai

Profile

大学院進学のため小樽協会病院勤務を一度退職後に、2012年再入職。特定看護師の試行事業を終え、2014年「慢性疾患看護専門看護師」資格取得。「普段からスタッフ間のコミュニケーションを良好に保つことを心がけています。協働しやすい環境なので、スタッフ全員が技術や能力に磨きをかけています。」



患者様に寄り添い、共に考え支援する。

医療の進歩、生活習慣の変化等により、長期にわたって管理を必要とする慢性疾患を有する人の割合が増加してきました。慢性疾患は薬物治療に加え、何よりも食事や生活の管理といった日常生活のマネジメントが必要になってきます。病が完治しない場合、その疾患は慢性の経過をたどります。患者様は、確かな見通しが立たない長い年月、その病につきあうことになります。そのような病とともに生活していくことは容易なことではありません。生活習慣を修正し、新しい習慣を身に着けるのには時間がかかります。患者様それぞれに培ってきた生活があり、習慣を心身ともに立て直すには月日を要します。これまでの生活の中に管理法を組み込んでいくにはとても工夫が必要です。病気を管理することの苛立ちや辛さなどの感情と付き合っていく必要もあります。慢性疾患看護専門看護師は、慢性疾患を抱えながら療養していく上で生じる様々な苦悩を和らげ、心配や困難なことを解決する方法と一緒に考えます。そして少しでも安心して療養生活が送れるような環境を整え、病を持ちながらも、その人らしく生活できるよう、また治療法の選択など揺らぐ気持ちに寄り添いながら一緒に考え、患者様が自己決定できるように支援していきます。慢性疾患患者様の多くは、適切なケアや支援がないために入院が長期化し、入退院を繰り返していくという実情があります。そのため、様々な場で慢性疾患を抱える患者様・ご家族に効果的なケアを継続して提供されるためのシステム作りや教育、ケア提供者へのサポートに取り組みたいと考えています。

医療者への支援がより良い看護へつながる。

地域医療福祉連携室患者支援センターに配属されてから、ここでは入院支援、退院支援・退院調整看護師としての役割も担います。入院から退院、外来、在宅、地域へというところをつないで治療マネジメント、患者マネジメントを多職種と連携・協働して行っています。患者様とご家族が、できるだけ安心して療養生活を送ることができるよう、病気との付き合い方、生活上の工夫、地域サービスの利用などの情報提供、相談、調整を行います。専門看護師によるケア対象者は、共に働く医療者も含まれています。まだまだ力不足を感じるもののほうが多い毎日ですが、私自身も学びながら、患者様と関わる中で看護師一人ひとりが成長していけるように、また共に働く医療者への支援を行うことで、患者様やご家族へより良い看護、医療を提供できると考えています。病とともに生きるプロセスに添いながら、対象者を生活の営みの中で捉え、支援的援助を医療チームで提供していくことが大切です。



後輩へのメッセージ

『つながり』を大切に
したケアを心がけてください。

高度化、専門化する医療の中で、看護師に求められる役割はますます大きくなっています。知識・技術を学ぶだけでなく、人と人とのつながりを大事にして、思いやりを持って心に寄り添い、「患者様にとって良いケア」を提供することが大切だと思います。

INTERVIEW

先輩に聞く「私の仕事」

もっと患者様の役に立ちたい、
その思いが成長のチカラです。



がん化学療法看護認定看護師
糸田 知美

Tomomi Itoda

Profile

2004年小樽協会病院入職後、2013年「がん化学療法看護認定看護師」資格取得。「やる前からダメだと決めつけず、何事もまずは挑戦するよう心掛けています。いつでも柔軟な対応ができるように、医療のことだけでなく趣味やライフワークを大切に、色々な人たちとの出会いを楽しんでいます。」



思いを後押ししてくれる仲間と環境。

小樽協会病院に入職し、病棟で常にかんの患者様と関わってきました。そんな中で患者様が、『がんに負けたくない』という思いで抗がん剤治療を受け、自分の病氣と向き合っている姿を見たときに、「私は患者様の思いに応えられるだけの看護をしているのだろうか?」と思うようになりました。少しでも安楽に治療を受けたい、がん治療に対する、先の見えない不安を緩和したいと思うものの、何をしたら良いのかわからず、いつまでも行動を起こせずにおり、看護師として自分の知識やスキルの低さを感じずにはいられませんでした。そのため、何か一つでも自信をもって患者さまに関われることを作りたいと思うようになったのがきっかけとなり、がん化学療法看護認定看護師の資格所得に向けて勉強を始めることにしました。

病院のサポートもあって、無事資格を取ることができましたが、実際に勉強を始めてみて思うことは、専門性を身につけることの大変さです。そんな不安でいっぱいの私に、同僚が「仕事のことは私たちが何とかするから、思いっきり勉強しておいで!」と背中を押してくれたおかげで学業に専念することができたことは、私にとってとても大きなことでした。患者さまからも「待ってるからね。」と思いきや温かい言葉をかけていただき、自分のスキルのためにと思っていた資格所得がたくさんの方々の思いに繋がっていることが励みになって、辛い課題や試験を乗り越えることができたと思います。私の「勉強したい!」という思いに対し、とても理解のある職場で本当に感謝しています。

仕事を楽しみながらレベルアップしたい。

これからは、もっと院内のスタッフにがん化学療法看護に興味を持ってもらえるよう活動していきたいと考えています。勉強したことで見えてきた課題がたくさんあり、がんの治療が日々進んでいるように、私も看護師としてこれからもレベルアップしていきたいと感じる毎日です。

また、かつての私のようにスキルや知識不足が故に「何をしたらいいのかわからない」という若いスタッフもたくさんおり、そのようなスタッフと一緒に頑張ってがん化学療法看護に対する意識を高めていくことが、これからの目標です。様々な視点からがん患者さまへできることを日々考え、トライし、院内のスタッフと一緒に勉強する楽しさや、仕事に対するやりがいを感じていきたいと考えています。



後輩へのメッセージ

楽しさや、やりがいを
感じるために。

最初は業務に追われて大変ですが、沢山の人のための関わりを通じて「自分が看護師として、どうなりたいのか」を見つけてほしいと思います。目標を持って仕事ができると、看護の楽しさや、やりがいを感じられるようになります。

助産師・看護師・准看護師

募集人員 約30名(事業拡大及び職員のワークライフバランス充実目的のため)

受験資格 平成29年3月卒業見込みの方及び過年度卒業の方

応募方法 下記の希望する面接日に合わせて、必要な書類を締め切り日までに郵送してください。

第1回面接:平成28年9月3日(土)9:00~ (書類締め切り:平成28年8月26日(金)必着)
第2回面接:平成28年9月17日(土)9:00~ (書類締め切り:平成28年9月9日(金)必着)
第3回面接:平成28年10月15日(土)9:00~ (書類締め切り:平成28年10月7日(金)必着)
第4回面接:平成28年10月29日(土)9:00~ (書類締め切り:平成28年10月21日(金)必着)
第5回面接:平成28年11月19日(土)9:00~ (書類締め切り:平成28年11月11日(金)必着)
第6回面接:平成28年12月3日(土)9:00~ (書類締め切り:平成28年11月25日(金)必着)
第7回面接:平成29年1月21日(土)9:00~ (書類締め切り:平成29年1月13日(金)必着)
第8回面接:平成29年2月4日(土)9:00~ (書類締め切り:平成29年1月27日(金)必着)
第9回面接:平成29年2月18日(土)9:00~ (書類締め切り:平成29年2月10日(土)必着)

必要書類 ①当院所定の履歴書(ホームページよりダウンロードしてください)

トップページ(http://www.otarukyokai.or.jp/)→採用状況→看護師募集→各募集内のドキュメント→履歴書

②卒業見込み証明書(平成29年3月卒業見込みの方)

③学業成績証明書(同上)※厳封のこと

④免許証(過年度卒業の方で原寸コピーにて)

給 与 北海道社会事業協会給与規定による

初任給/大学卒:206,200円~

短期(3年)大学、専門学校(3年):194,400円~

昇 給 年1回(4月または10月)

諸 手 当 ①夜勤手当...7,400円~/回

②賞与...2回/年

③通勤手当...50,000円まで

④住宅手当...29,000円まで

⑤その他...時間外手当、育児手当、扶養手当、燃料手当等

退職金制度 北海道社会事業協会 退職給与規定による

勤務形態 週38時間30分(4週6休 100日/年休)で、下記のとおりです。

※週35時間(4週8休 115日/年休)について、現在検討中です。

①2交代制(全病棟)…日勤:8時30分~16時50分 長日勤:9時10分~21時30分

夜勤:21時00分~9時10分

②外来は、夜間・休日当直制

③手術室、内視鏡室、血管造影室は、待機制

休 暇 年次有給休暇(1年次16日、2年次以降20日)、

夏季休暇、産休、育児休暇、介護休暇、子の看護休暇、忌引等

自己研鑽支援 ①学会・研修会参加費用助成、研究費用助成あります。

②認定看護師資格取得支援あります。

マイカー通勤 マイカー通勤可 ※駐車場の空き状況により要相談

奨学金制度 当院は頑張る看護学生さんを応援します。「奨学金制度」をご活用ください。

下記の条件に該当する方が対象となります。

■これから看護学校を受験する方 ■現在、看護学校在学中の方(最終学年まで受付ます)

詳しくは下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

保育施設 院内保育施設「たるっこ」は24時間対応。あなたの職場での活躍をサポートします。

保育所:24時間365日、25,000円/月(パート職員は半額とする)給食費別添

ご連絡・お問い合わせ先

(株)0134-23-6234 担当/総務課長:加納武敏 看護部長:川畑いづみ

社会福祉法人 北海道社会事業協会小樽病院 〒047-8510 北海道小樽市住ノ江1丁目6番15号